

B 級コーチ養成講習会 レポート

報告者: 青島 大樹 (島田樟誠高等学校)

■目的 (事業: 2022 年度日本サッカー協会公認 B 級コーチ養成講習会 JFA コース)

・サッカーの原理原則の再確認と実践における伝える技術の向上

■流れおよび全体像

～事前課題～

2試合分の試合分析 (自チーム)、8 つのテーマのログブックと自己分析シートの提出。

～間の学習 (前期と後期の間の期間)～

2試合分の試合分析 (自チーム)、E-learning での共通科目の試験とレポート課題の提出と、ログブック及び指導実践 (S 級もしくは A 級ジェネラルの方に 2 テーマの指導実践を見て頂きコメントをもらう)

～受講期間【講義】～

「分析」、「プランニング」、「サッカーの基本戦術」、「コーチング」、「フィジカル」、「コミュニケーションスキル」、「GK」、「スポーツ倫理」、「世界のサッカー」、「審判」、「セットプレー」、「チームマネジメント」

～受講期間【実技】～

8 テーマ+GK、ゲーム、セットプレー、フィジカル、グループ内課題

「攻撃の個人戦術 (パス&サポート)」、「守備の個人戦術 (チャレンジ&カバー)」、「ビルドアップ」、「中盤の守備」、「中央突破」、「ゴール前の守備」、「サイド攻撃」、「クロス守備」、「GK」、「ゲーム」、「フィジカル」、「グループ課題 (前線からの守備)」

～試験期～

「指導実践 (サイド攻撃)」、「口頭試験」、「筆記試験」

■課題の発見と分析

私自身、B 級受講前は「これを選手に伝えよう!」という決め打ちをしてトレーニングを行っていた部分があった。その結果、現象が起きないとただやらせるだけのトレーニングになってしまっていた。そこで目標の一つに「サッカーの原理原則の再確認と実践における伝える技術の向上」を掲げて受講した。この B 級の受講期間で、わかっていたつもりだったサッカーの原理原則が、より明確に理解し、言語化することにつながった。それによりトレーニングにおいても、何がうまくいっていないのか、起こしたい現象を起こすにはどう働きかけをしたらいいのかを、頭の中で整理できるようになり、トレーニングで起きている現象から、コーチングをし、起こしたい事象につなげることができるようになった。

またトレーニング中の臨機応変さもこの B 級受講で培われた。ルールやオーガナイズの変更により、リアリティとクラリティのバランスをコントロールすることは指導者に求められる能力であると感じた。

今後の課題を『言葉のボキャブラリーを増やすこと』としたい。この B 級受講期間でも多種多様な経歴を持つ指導者の方達の指導やプレーに触れて、交流をする中で改めて言葉の重要性、言葉の面白みを感じられた。伝え方、表現の仕方、選手の頭に残る言葉を探し、考えて伝えていきたい。

■所感

今回 B 級指導者養成講習会に参加させて頂き、全国から同じ志を持つ人たちと、非常に密な時間を過ごすことができた。ディスカッション、実技、講義、共に同じ課題に向かい、同じ時間を過ごしていく中で、様々な考え方、サッカー感に触れることができ、自分のサッカー感を崩す時間となった。この B 級指導者養成講習会でのサッカーに向き合う姿勢や、考え方というのを今後のスタンダードにしていきたい。

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」

この言葉を胸に、日々学び続けることで、自分のサッカー感を崩し続けていきたい。

最後にこのような機会を与えて頂いた関係者の皆様、東海コースでお世話になったインストラクター、受講生の方々、補助学生に感謝致します。ありがとうございました。

B級指導者養成講習会 レポート

報告者:勝部 哲也(FC桜が丘)

●概要

日程 前期 06月06日(月)~10日(金) 4泊5日

後期 10月11日(火)~15日(土) 4泊5日

試験 11月07日(月)~09日(水) 2泊3日

会場 鹿島ハイツスポーツプラザ

講師 手倉森浩氏・西川誠太氏

指導教本はJFA サッカー指導教本 2020 を利用

●内容

・講義

コミュニケーションスキル、プレー分析、サッカーの基本戦術、フィジカル、コーチング

技術・戦術的トレンド、スポーツマネジメント、セットプレー、スポーツ倫理、ゴールキーパー、審判

・実技 8テーマ、フィジカル、GK

攻撃の個人戦術(パス&サポート)・守備の個人戦術(チャレンジ&カバー)・フィジカル・ビルドアップ・中盤の守備・中央突破・ゴール前の守備・サイド攻撃・クロス守備・GK

・間の学習

スポーツ医学、スポーツ心理学、スポーツの社会学、トレーニング科学の4分野における試験とレポート課題がある。

前期合宿前後にて試合分析の課題を行う。

●学びと課題

私はB級指導者養成講習会(関東コース)に参加させていただいた。1種から4種まで様々なカテゴリーで活躍される指導者の方々、JFAのインストラクターの方々と交流をしながらB級指導者養成講習会のテーマについて学びを深めることが出来た。

指導実践ではテーマに基づいたサッカーの原理原則と4局面での対応を考慮したプランニングをして、シンクロ、フリーズコーチングを行いながら現象を引き出さなければいけなかった。反省としては、目の前で起きている現象を追うようなコーチングになり根本的な改善を促すようなコーチングが出来なかった事である。他にもテーマに沿った現象を引き出したいがあまりに成功体験ばかりが増えトライ&エラーが無いプランニングになってしまったこともあった。

前期・後期の合宿に加え、間の学習でもスポーツ医学、スポーツ心理学、スポーツ社会学、トレーニング科学の4分野において講習を受け、課題・試験を受けた。サッカー選手の身体の発達に合わせた科学的なトレーニング構築、現在所属しているチームが地域に根差したクラブなのか等、日々の指導では学ぶことができない内容を多く吸収することが出来た。

試験を通して自身の指導を改善しなければならないことを認識できた事他に、全国各地の多様な経歴を持った指導者の方々との合宿期間中にサッカーの理解を深め、自チームでも交流を持つことができていたことがこの講習会に参加できた財産である。今後は関わっていく選手の成長と静岡県のサッカーの発展に貢献できる指導者になれるよう取り組んでいきたい。